



第2回「道德教育の未来」セミナー

～令和のこれからと道德教育の新たな展開～

実施結果のご報告

上記セミナーは、2024（令和6）年2月23日（金）、富士山の日に、本学の附属小金井小学校のICT室をオンラインの発信基地として開催されました。

令和も5年が過ぎ、コロナ禍の先を見据えた道德教育の姿を、より具体的に考えていくときとなりました。そこで、今回は、昨年度を継続発展させる形で、文部科学省にて主として小学校の道德教育と中学校・高等学校の道德教育を担当されるお二人の教科調査官から、道德教育の今後に期待されることへの示唆をいただきながら、そのあるべき方向について、具体的かつ未来志向で考え合う機会といたしました。

当日は、次のような内容で進められました。

セミナーのプログラム（概要）

- 開会挨拶
- 紹介 本学の道德教育推進事業について
- 講話と展望：『道德教育の課題と今後への方策』
 - 講話①：道德教育、その要である道德科の推進・充実
 - 講話②：道德教育の現状と今後に向けて
 - 展 望：道德教育と授業の新たな可能性ひらく
- 《休 憩》
- 報 告：道德教育に関する全国調査（速報値）より
- シンポジウム：これからの道德教育を共に考える
 - ～令和の時代を豊かに生きる子供たちのために～
- 閉会挨拶



なお、当日は、全国よりオンライン（Zoom）へと、全体で200名近くにもものぼる多数の方にお集まりいただき、ICT室で人数を制限した形で中継を視聴いただきました。また、開催に当たっては、本学や都内の道德研究を連係する先生方はもとより、会場である附属小金井小学校のICT室の先生方大変なご協力をいただきました。

開催へのお力添えをいただき、本当にありがとうございました。



セミナーの実際から

講話と展望：『道徳教育の課題と今後への方策』

講話①：道徳教育、その要である道徳科の推進・充実

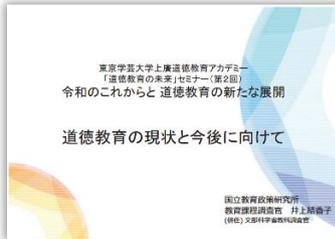
堀田 竜次 氏（文部科学省）



- ・ PISA 調査を踏まえた文部科学省の取組
- ・ 令和の日本型学校教育
- ・ 道徳教育の目標、「特別の教科 道徳」の目標
- ・ 学校教育における道徳性の捉え方
- ・ 道徳科の学習活動と評価のイメージ
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・ 道徳科の学習指導過程での ICT の活用(例) ほか

講話②：道徳教育の現状と今後に向けて

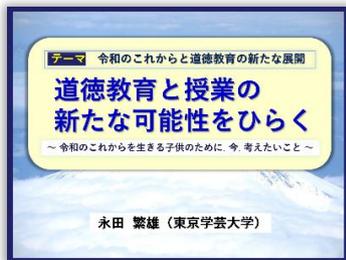
井上結香子 氏（文部科学省）



- ・ 急激に変化する中で育むべき資質・能力
- ・ 中学校における道徳教育
道徳教育実施状況調査の概要 道徳科の目標
多様な指導方法の工夫 ICTを活用した振り返りの例
- ・ 高等学校における道徳教育～人間としての在り方生き方
公民科「公共」～持続可能な社会作りの主体
公民科「倫理」～その改善充実、単元の構造 ほか

展望：道徳教育と授業の新たな可能性ひらく

永田 繁雄（東京学芸大学）



- ・ 平成道徳で変わるものは？ 変わらないものは？
- ・ 「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体化
- ・ 持続可能な開発目標＝SDGs をどこまで意識すべきか
- ・ 教育全体の目指す方向「Well-being」
- ・ 子どもの主体自己を発揮する「伴走者」
- ・ 誘導的な授業に追求的な授業をどうコラボさせるか
- ・ 小中学校と高等学校の道徳教育の連続発展 など

報告：道徳教育に関する全国調査（速報値）より

範 蘭心（本学専門研究員）



- ・ 回答者について
- ・ 道徳の授業における取組
使用する中心教材 教科書以外の教材
- ・ 道徳の授業について感じる事
道徳の授業に対する印象 充実に対する考え
- ・ 道徳の時間から「道徳科」への変化について
- ・ 道徳授業の充実についての考え

※本調査については、後日、詳細な結果を報告いたします。

シンポジウム：これからの道徳教育を共に考える

～令和の時代を豊かに生きる子供たちのために～

シンポジスト 堀田 竜也 氏（文部科学省）

井上結香子 氏（文部科学省）

永田 繁雄 氏（東京学芸大学）

コーディネーター 齋藤 嘉則 氏（東京学芸大学）

約1時間の協議は多岐にわたりましたが、主として次のような内容が話し合われました。

○ICT活用の可能性を生かした「個別最適な学び」を「協働的な学び」とつなげて充実させていく。

その中で、子どもが自己調整していく力が育まれる

○生きる上での課題を見つけることは、授業の中で「問い」を見つけることと重なる。子ども自身の「問い」の連続を大事にしたい。

○分からないことを質問することが重要だが、その質問自体が難しく、まずはそれを見つけて質問できることが重要。子どもはこれからの社会でも常に問い続けていく。

○道徳の教科化で教科書を使うよさもある半面、逆に間口が狭くなったり地域色がなくなったりしている面もある。導入の多様な工夫や、二項対立を積極的に生かしていくべき。

○主題への導入、教材への導入など方法的にも多様で、指導を弾力的に行っていくことが必要。

○公民科「公共」の現代の諸課題の解決から提言に向かう、いわゆる「第三次の問い」などを軸に生かして、持続可能な社会づくりの主体としての意識を育むことを大切にする。

○高等学校段階では、公民科の「公共」「倫理」と特別活動が道徳教育の中核的場面。道徳科がない小・中学校からの発展を様々な形で発想していくことが求められる。

○幼児期から、「道徳性の芽生え」「規範意識の芽生え」から始まり、高等学校段階まで子どもの発達を連続的にとらえられるようにしたい。

○複数時間の関連を図った指導も考慮していく。その際、重点内容を生かして年間指導計画を丁寧に組んでいくことが大切になる。



当日は、会場（ICT室）内での質疑となりましたが、オンライン参加者からは Chat 等での質問を受け付けました。

その質問については、それぞれにメールにて回答、ご連絡を差し上げました。

実施後に寄せられた感想&コメント等から

実施後に、Chat やメール等に多数ご意見やご感想をいただきました。

その内容の中から要約&整理をして以下に掲載いたします。

【問いの大切さ・個別最適な学び】

◇問いの大切さについて改めて考えることができました。計画からずれたら…と守りになりがちでしたが、子どもの立場に立つとそんな授業では学び甲斐が小さくなると反省しました。

◇子どもがもった問いを、どのように扱っていくのか、そもそも問いをもてるようにするためにはどのような教材提示や教材の選定があるのかなど、自分の中での課題が増えました。

【小中高等学校のつながりや発展】

◇小学校に勤務しています。普段は小学校のことしか考えていないと反省。小学校の道德教育は、中学校、高等学校とどのようにつながっていくのかと考える必要性も感じました。

◇目の前の授業で精一杯の所があったのですが、小学校での学びが中・高、その子の人生にもつながっていくことを改めて考えました。

【中学校における授業の工夫】

◇中学校における授業改善で、まだまだ理解できない部分が多いです。生徒たちが問いを立てることは重要だと思いますが、ではなぜ22の内容項目が決められているんだろうとも思います。

◇中学校社会科の授業は、もう暗記の授業ではなく、持続可能な社会の在り方について議論追求し、プレゼンする形に変わりました。道德研修の在り方も変わらないといけないと思いました。

【特別支援学校での道德教育】

◇特別支援学校にて道德科の授業づくりを研究しています。学習活動の充実の方向性を捉え直すこと、特に配慮を要する児童生徒への的確な支援をどうするかを改めて考えることができました。

◇特別支援学校に勤務しております。知的障害の特性もあり、その重要性は切に感じております。教育活動全体で学習する事にはなっていますが、十分に実践できていないもどかしさも感じています。

【セミナーの活用と期待】

◇学校を訪問し、授業を見せていただく立場です。現場の先生方は試行錯誤しています。授業改善への情熱が失われることのないよう、本日の学びを助言に生かしていきたいと思います。

◇「自己の生き方」について自分自身が答えを持つこと、子どもたち自身にその答えを見つけさせること、その答えを周りに伝え、多様な考えをもつこの人間社会で協調して生きていけるような子を育てる方法を考えていきたいと思いました。

多くのご意見、感想等をいただき、ありがとうございました。これらの内容を、今後のセミナーの改善や、道德教育に関する活動などに生かしてまいります。

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構
上廣道德・倫理教育研究開発推進室

川出龍一・範 蘭心

